

へべスの1年生枝付き苗木は樹冠拡大と初期収量に優れる

苗木に1年生枝付き苗木を利用することで樹冠が拡大し、早期成園が可能となる

背景・目的

- へべスは、県内での栽培面積の増加に伴って生産量の増加が見込まれています。
- 新植に伴い、早期の樹冠拡大と、初期収量を確保する必要があります。
- へべス苗木の1年生苗木と2年生苗木、1年生枝付き苗木(図1、図2)の生育を比較しました。
- 苗木の仕立て法及び養成年数を検討することで、樹冠拡大や収量等早期成園化に適した苗木について明らかにしました。

成果の内容

- 定植1年目は、2年生苗木の新梢発生数は多くなりましたが、定植2年目には、樹冠容積は2年生苗木及び1年生枝付き苗木が1年生苗木に比べて大きくなります(表1)。
- 定植3年目以降の樹冠容積は、1年生枝付き苗木が順調に拡大し(表2)、3年間の積算した収量は、2年生苗木と同等以上になります(表3)

表1 定植1年目の新梢発生状況及び2年目の新梢発生と樹冠容積

試験区	定植1年目(2017年)				定植2年目(2018年)			
	春枝数 (本)	夏枝数1回目 (本)	夏枝数2回目 (本)	合計枝数 (本)	春枝数 (本)	夏枝数 (本)	合計枝数 (本)	樹冠容積 (m ³)
2年生苗木	25 a	21 a	34	79 a	87	93 a	179 a	2.0 a
1年生枝付き苗木	15 b	12 b	21	47 b	81	64 b	145 a	1.8 a
1年生苗木	10 b	13 b	21	44 b	41	54 b	94 b	0.6 b
有意性 ²	*	*	n.s.	*	n.s.	*	*	*

²*はTukeyにて異英文字間に有意差(P<0.05)を示す。

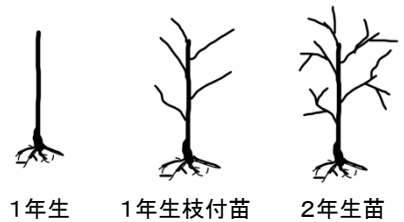


図1 試験に用いた苗木の模式図

表2 定植3年目からの樹冠容積の推移

試験区	2019年	2020年	2021年
2年生苗木	3.4 a	5.6 a	6.8 ab
1年生枝付き苗木	3.2 a	5.8 a	8.0 a
1年生苗木	1.4 b	3.7 b	5.3 b
有意性 ²	*	*	*

²*はTukeyにて異英文字間に有意差(P<0.05)を示す。
樹冠容積は長径×短径×高さ×0.7で算出した。

表3 3か年の累積収量

試験区	収量	
	(kg)	(個)
2年生苗木	18.2 ab	369 ab
1年生枝付き苗木	19.3 a	376 a
1年生苗木	11.2 b	232 b
有意性 ²	*	*

²*はTukeyにて異英文字間に有意差(P<0.05)を示す。



図2 定植1年目の1年生枝付き苗木の春枝硬化後(2017年7月撮影)

成果の活用方法(又は期待される効果)

- へべスを新植する場合に初期収量が優れるため、未収益期間が短縮されます。
- 苗木の育成方法が、他のカンキツへの応用が見込まれます。

留意点

- 枝付き苗木を販売できる苗木業者は限られますので、事前の確認が必要です。

関連研究成果カード：2021年後期 番号21

関連事業名：カンキツの連年安定生産技術の開発と新品種育成(県単)

研究期間：2017年～2021年